

求めて——家族経営危機の国際比較・環境問題・農業危機・集落機能の接点としての家族経営危機——と具体化したこと、また宿題委員長については北原会員が当たることを決め、各地区の宿題委員に連絡をとり、了承いただいたことが報告された。

二、大会自由報告の申込状況について

事務局より、以下の三名の会員から大会自由報告の申込みがあること、八月十六日の締切りまでにはまだかなり増える見込みであることが報告された。

三、「年報」の原稿枚数について

長谷川昭彦会員より、「年報」の原稿は、自由報告四百字詰原稿用紙六〇枚、課題報告同八〇枚が目安になることが報告された。

四、次期事務局について

関西学院大学にお願いすることが確認された。

五、一九九二年度大会について

熊本県で開催予定であり、米沢和彦会員と黒崎八州次良会員で協議をお願いする。

審議

一、一九九一年度大会について

黒崎会員より、大会要領について提案があり、了承された。

二、一九九一年度共通課題について

北原会員より、運営委員会の前に行われた宿題委員会の報告とあわせて、一九九一年度共通課題の具体化と報告予定者について提案があり、了承された。

三、大会の持ち方について

報告

一、宿題委員長の選出等について

北原淳会員より、六月八日、中部・近畿地区を中心に宿題委員の会合をもち、共通課題について、「日本農業・農村研究の課題を

大会の運営事務について、宿題委員会・大会事務局・研究会事務局に一任することが決定された。

四、第八回国際農村社会学会議について

高橋明善会員より、会議の予定、報喜希望者の状況、テーマ・セッション形成の状況、その他アジア支部のネットワークづくりに関する取組みの状況などが報告され、村落社会研究会が国際農村社会学会に団体加入すること、また高橋会員をセッション・オルガナイザーとして村落社会研究会がセッション形成のために積極的に取り組むこと、さらに長谷川会員を中心にアジア・ネットワークづくりに取り組むことが確認された。